

戦争直後、屈斜路湖に投棄された旧日本軍の毒ガス弾は湖底に残っている「可能性はある」

紙智子参議院事務所が早速調査

先週の村上通信でお伝えした「昭和20年10月、計根別飛行場から弟子屈町まで、鉄製の太い円筒形のもの11本を運んだ。その後、別の人をそれを屈斜路湖に投棄した。旧日本軍が保有していた毒ガス弾だ」という証言の続報です。

証言者は、その後、御卒別の友人のところへ「自分の土地の近くに屈斜路から引き揚げた毒ガス弾が埋められている」と聞き、とっさに「あの時の毒ガス弾だ」と思いました。

この証言をもとに、数人で証言者とともに処分した場所を確認。住所は、弟子屈町の奥御卒別の森林でした。

○平成8年5月に、毒ガス弾が発見された経緯

(環境省) 昭和48年に旧毒ガス弾の全国調査、平成15年にフォロアップ調査を行った。

屈斜路湖にプロパンガスボンベのような金属類を投棄したという合田氏などの証言を得て、北海道などが平成7年に調査を開始、その後陸上自衛隊が参加して、26発を引き上げ調査をおこなった。処理にあたっては、一時保管した後、(毒ガス弾の)成分を中和する作業を用いて、無害化をして処理をした。

○今回の証言とは別の合田氏の証言では30発から40発を投棄し



一方、村上議員は、この証言データや資料を共産党の紙智子国会事務所に持ち込み調査を依頼。

環境省大臣官房環境保健部環境安全課環境リスク評価室と防衛省統合幕僚監部・首席参事官付国内運用班の担当者から次のような説明を紙事務所が受けました。

たと証言しているが、実際に上がったのは26発。湖底に他にも、毒ガス弾が残されている可能性はあるか？

(環境省) 可能性はある。

※合田氏と今回の証言は時期も運送方法も異なることから別の案件と思われる。また、これ以外にも美幌基地から別に屈斜路に投棄したなどの情報もあり、相当数の毒ガス弾が屈斜路湖に投棄された可能性があります。

○屈斜路湖で投棄された場所は？

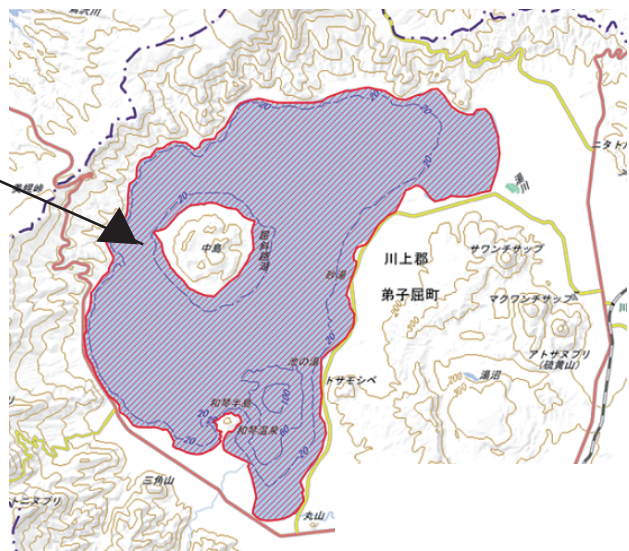
(防衛省) 見つかった場所は、屈斜路湖の中島の西側の1箇所だけだと聞いている。

○計根別飛行場から運ばれた毒ガス弾は、同じ場所に投棄されたのか？

(防衛省) それは、わからない。

○毒ガス弾はどんなものか？

(防衛省) 屈斜路湖で見つかったのは、イペリットとルイサイトという物質を混合して使う化学弾。



このあたりから引きあげられたのだろうか？

簡単に言うと、マスタードガス、びらん剤。皮膚に触れると、細胞がただれていく。触れるだけでも、ただれるが、それを吸い込んだりすると、肺の中がただれる。呼吸が出来なくなり、最悪の場合は、死に至る。

○毒ガスの中和、無害化とは？

(防衛省) このタイプは、加水分解つまり、水で中和して毒性が無くなる。

砲弾が湖に埋まっていて、穴が開いて(成分が)流出したとしても、それが直ちに人体に影響を及ぼすことはないと思う。(成分はおそらく残留しない。)

○毒ガスを処理した後の砲弾・容器などはどうなっているか？

(防衛省) 平成12年9月から11月にかけて、無害化処理した。平成12年に、容器は鉄くずとして処分し、もうこの世にはないと思う。